

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ
岡崎本社 ☎0564-24-2511 岡崎市吹矢町88番地
豊田営業所 ☎0565-28-3891 豊田市豊栄町6丁目1番地

7ヵ月ぶりの8万戸超え

6月の新設住宅着工

国交省は7月31日、6月の新設住宅着工を発表した。需要期と増税駆け込みが重なって持ち家が上振れし、貸家も前年同月比約4000戸減ったものの3万戸を超えた。そのため、総着工数は2018年11月以来7ヵ月ぶりに8万戸を超え、木造全体で4万8000戸超となった。木造全体の19年1〜6月累計は25万5017戸（前年同期比1・2%増）の微増。6月の総着工戸数は8万1541戸と3ヵ月ぶりに増加し、床面積も684万9000平方メートル増加。床面積が680万平方メートルを超えるのは17年6月（714万平方メートル）以来2年ぶり。19年1〜6月の新設住宅累計は44万9122戸の微減。これは、持ち家の増加が寄与しており、6月分は2万8394戸と9ヵ月連続で増加。これほど連続で増加するのは、消費税8%増税前の12年9月〜14年2月までの18ヵ月連続増加以来となる。

持ち家が2万8000戸を超えるのは、13年12月3万1858戸以来5年6ヵ月ぶり。19年3月末までの駆け込み契約分が着工に反映された形となった。ここ数カ月は前年同月比1000〜2000戸の増加で推移してきたが、今月は約3000戸の増加となった。19年1〜6月の累計は14万3977戸と、前年同期比1万1373戸増加。貸家は3万645戸と10ヵ月連続で減少。18年間で前年より約2万3000戸減ったが、19年は6月までで既に前年同期比2万1405戸減少している。

分譲住宅は2万1870戸と、3ヵ月ぶりに増加。戸建分譲が好調で、1万3096戸と前月の減少から再び増加した。19年上半期の累計は7万2465戸で、4034戸増加した。

針葉樹、生産量が過去最高

6月の合板供給

6月の内外産合板供給量は47万6200立方メートルとなった。針葉樹合板の生産量は27万6300立方メートルと過去最高。一方、輸入合板の入荷量は18万9900立方メートルとなり、2ヵ月連続で20万立方メートルを下回った。

国産合板は稼働日が多かったことに加え、5月末に新たに稼働した2工場の生産分が微増となったことで、1年ぶりに過去最高の生産量を更新した。針葉樹合板のうち、構造用合板の生産量は25万3000立方メートル、針葉樹非構造用合板は2万3300立方メートル、構造用合板の生産量はほぼ前年並みだったが、非構造用合板が大きく伸びた。針葉樹合板の出荷量は27万2000立方メートル。今年では1月に相次ぐ高水準となった。このうち、構造用合板は24万7800立方メートル、非構造用合板は2万2400立方メートル。生産量が出荷量を上回ったため、期末在庫量は12万1800立方メートルと前月比6800立方メートル増えた。4ヵ月ぶりに増加したものの、国内のほとんどの合板工場では在庫量が出荷ベースの0・4ヵ月分しかない状態が続いており、厚物合板など在庫が歯抜けになる品目も出ていく。

輸入合板の産地別入荷量はマレーシアが6万1000立方メートル、直近5年間で最低となった。インドネシアは7万7000立方メートル。直近の平均である7万立方メートルに回復したものの、低水準に変わりはしない。中国は4万3000立方メートル。荷動きが停滞しているため、国内流通各社は積極的に現地の新規注文を入れられておらず、今後も過去にない低水準の入荷が続く可能性が出ている。

国産合板商況

針葉樹合板の荷動きは徐々に回復している。分譲住宅会社や大手ハウスメーカー等の仕事を確保しているプレカット会社等は稼働率が伸びており、それに伴って針葉樹合板への手当ても進めている。ただ、木建ルートの荷動きは精彩を欠く状況が続く。好・不調が二極化している。商社や大手問屋の中には、輸入合板の荷動き不振から売り上げ確保のため針葉樹合板を積極的に販売する動きもみられる。

国内合板メーカーもフル生産が続いているが、ほぼ同水準の出荷が続いているため、思うように在庫を確保できていない。このため、厚物合板の実付品などで欠品が出始めており、納期も一週間弱かかっている。また、今年の盆休みは例年よりも長く、7月後半から8月中の生産枠が埋まっている工場も少なくない。既に通常の品目でも生産日程分の受注が埋まっており、月中の注文には応じづらくなっている。

こうした中、東日本の合板メーカーを中心に安値は正に向けた動きが本格化している。建値と比べて極端に安値だった販売先を中心に徐々に値上げを進めており、建値と市価の格差は徐々に縮小している。一方、西日本の合板メ

国交省・建設技能実習生受け入れで告示 キャリアアップシステム義務化

国土交通省は5日、建設分野の外国人技能実習生の受け入れに対して、建設キャリアアップシステムへの登録、受け入れ人数枠の設定などを義務化する告示を制定・公布した。外国人技能実習生候補者に対する審査・認定するための基準を追加している。

外国人技能実習生のうち、建設分野は失業者が最多で、実効性のある対策が急務だ。報酬の変動や、就業場所が変わり就業管理が難しいこと

が失陥要因となっており。また4月から、改正入管法による新たな在留資格「特定技能」の運用が始まったことをうけ、技能実習制度・外国人建設就労者受け入れ事業についても、新制度との整合を図りながら適切な運用をする必要がある。そうした背景から告示を制定した。

技能実習を行う体制の基準では、申請者が建設業許可にも必要な建設業法第3条の許可を受けていること、申請者が建設分野の外国人技能実習生に受け入れておられる外国人技能実習生に適用される。2020年1月1日から施行される。

「カー」は今のところ様子見。

名古屋

針葉樹合板は、メーカーは値上げ姿勢を強めたものの、長尺物など一部を除いて新価格はあまり浸透しておらず、全体的には保合。特に直需系に比べて木建ルートは実需が盛り上がっていないため、反応が鈍い。当面、主要プレカット工場は盆休みまで多忙となる見込みで、針葉樹構造用合板の消化はさらに進む模様。流通在庫の水準も相場が軟化する展開はなさそうだ。品目によっては以前よりも納期に時間が掛かっており、人件費や運賃の上昇で販売価格へのコスト転嫁も急務だ。

表示説明	値下げ ☀️	横ばい 🌫️	値上げ ☔️
市況状況	ファルカタ薄ベニヤ・・・	ファルカタ正寸12mm T2・・・	針葉樹12mm 3×6・・・